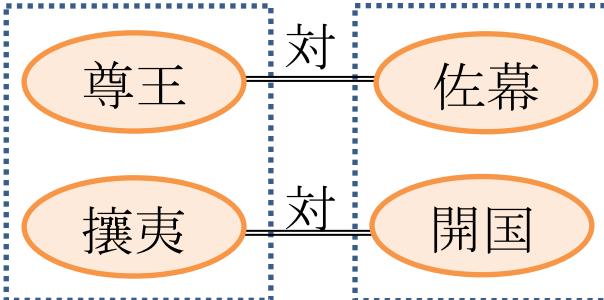


年	幕末の動き(その1)
嘉永6年(1853)	6月、ペリー軍艦(黒船)4隻を率いて浦賀に来航
嘉永7年・安政元(1854)	1月、ペリー軍艦(黒船)7隻を率いて浦賀に再来航 3月、日米和親条約締結⇒下田・箱館を開港
安政5年(1858)	4月、井伊直弼が大老に就く 6月、日米修好通商条約を無勅許(むちょっきょ)で調印(天皇の許可なしに締結) (～安政6年)江戸幕府「安政の大獄」で攘夷派を弾圧…徳川斉昭(謹慎) 長州藩士・吉田松陰(処刑)、福井藩士・橋本左内(処刑)ら思想家が次々処刑
安政7年(1860)	3月、水戸・薩摩藩脱藩浪士が大老・井伊直弼を暗殺(桜田門外の変)
文久2年(1862)	1月、老中・安藤信正、和宮降嫁問題で反対派の水戸浪士の襲撃を受け負傷(坂下門外の変) 2月、将軍家茂と和宮(孝明天皇の妹)が結婚…公武合体へ 4月、薩摩藩・島津久光が薩摩藩尊王攘夷派志士を殺害(寺田屋事件) 7月、幕府改革…京都守護職を設置(会津藩主・松平容保が就任)、新選組設置 8月、横浜近くの生麦村で、薩摩藩士がイギリス人を殺傷(生麦事件)
文久3年(1863)	4月、幕府が天皇に5月10日の攘夷決行を上奏 5月、長州藩が関門海峡で外国船(アメリカ・フランス)に砲撃(下関戦争) 7月、薩摩藩がイギリス艦隊(7隻)と鹿児島湾で交戦(薩英戦争) 8月、薩摩・会津の公武合体派が朝廷内の同派と組んで、長州藩主体の急進的尊王攘夷派を京都から追放(八月十八日の政変)
元治元年(1864)	3月～12月、水戸藩の尊王攘夷派である天狗党が筑波山で挙兵、武田公雲斎らが上京を目指したが、敦賀で加賀藩に降伏(天狗党の乱) 5月、加賀藩・前田慶寧(よしやす)は、朝廷からの京都御所禁門守護の要請を受け入京 6月、池田屋に潜伏していた長州・土佐藩の尊王攘夷派志士を新選組が襲撃(池田屋事件) 7月、八月十八日の政変で京都を追われた長州藩は、池田屋事件を機に入京 長州藩は、薩摩藩・桑名藩と交戦したが敗走⇒「禁門の変」(蛤御門の変) ⇒加賀藩・慶寧病気を理由に撤退 7月～12月、幕府が長州を攻撃(第一次長州征伐) 8月、米・仏・英・蘭の四国連合艦隊が下関を砲撃し下関砲台を占拠

## 幕末の動き(その2) 安政5年(1858)6月～

拠り所を天皇に求め、崇拝する考え方

外敵(諸外国)を打ち払う考え方



江戸幕府を支持し、難局を乗り切る考え方

鎖国をやめて、諸外国との外交で富国強兵を目指す考え方

安政5年(1858) 大老・井伊直弼  
朝廷の許可なく **日米修好通商条約**

開国によって外国と通商が行われ、  
そのために諸物価が一斉に上がって  
国民の生活が苦しくなった。

生糸…フランス、茶…イギリス  
が独占的に買い占めた

尊王攘夷運動が高まる  
【長州藩】

「安政の大獄」で攘夷派を弾圧  
「桜田門外の変」で井伊直弼が暗殺

なぜ物価が上がったのだ

開国のためだ

誰が開国したのか

幕府だ

そんな幕府は  
ぶつぶせ

<孝明天皇の考え方> 外国を日本から  
追い払うのが第一で、そのためには、  
幕府の力を借りるほかにない。

攘夷を条件に↓ **公武合体論へ**

文久2年(1862) 将軍・**家茂**と  
孝明天皇の妹・**和宮**が結婚

## 幕末の動き(その3) 文久2年(1862)4月～

**【寺田屋事件】**  
島津久光が薩摩藩尊王攘夷派志士を殺害

**【幕府改革】**京都守護職  
会津藩・松平容保  
新選組設置

**【生麦事件】**  
薩摩藩士が  
イギリス人を殺傷

**【下関戦争】**  
長州藩が無通告で  
アメリカ・イギリス・オランダ船を  
砲撃するも大打撃

長州藩

一藩では外国に勝てぬ

8月13日、尊攘派は、攘夷祈願という  
名目で孝明天皇の大和行幸を発表し、  
攘夷軍を結成して欧米人排除を企画  
⇒天皇は乗り気でなく、計画阻止を

**【薩英戦争】**  
薩摩藩とイギリス艦隊が交戦し  
薩摩藩敗北

### 【八月十八日の政変】

薩摩藩・会津藩・朝廷内の公武  
合体派で、御所の九つの門を一  
斉に閉鎖してクーデターを決行

三条実美ら急進派の公家7名と  
長州藩の禁門守護職を剥奪し  
京から追放

朝廷から加賀藩主・齊泰に長州藩  
の代わりに京都御所禁門守護の要  
請⇒慶寧が上洛

### 【池田屋事件】

長州・土佐藩の尊王攘夷派志士が集結  
『御所に火を放ち、一橋慶喜・松平容  
保らを殺害、孝明天皇を長州へ連れ去  
る計画』が発覚⇒新選組が志士を襲撃

長州藩・急進的尊王攘夷派志士

御所

会津藩  
薩摩藩・桑名藩  
新選組

御所襲撃  
禁門の変

病気理由  
加賀藩撤退

## 幕末の動き(その4) 元治元年(1864年) <加賀藩の動き>

5月10日

朝廷は、加賀藩13代藩主・前田斉泰に禁門守護職を任命  
斉泰に代わり嫡男・慶寧が「京都御所禁門守護のため出兵」上洛



7月8日 池田屋事件 長州藩・土佐藩の尊王攘夷派志士

『祇園祭の前の風の強い日を狙って御所に火を放ち、その混乱に乗じて  
一橋慶喜・松平容保らを暗殺し、孝明天皇を長州へ連れ去る計画』

8月20日 禁門の変(蛤御門の変)



加賀藩・慶寧は、幕府と長州藩との仲介のために働いたが、  
慶寧は長州藩との対戦を避け、病気を理由に近江海津へ撤退



※慶寧の任務放棄を糾弾

◇慶寧→金谷御殿に幽閉

◇慶寧付家老・松平大式⇒近江海津で切腹

◇不破富太郎・千秋順之助・大野木仲三郎、青木新三郎⇒切腹

◇福岡惣助⇒生胴

◇その他、40数名⇒切腹・処刑・配流などの厳罰

加賀藩の「元治の変」という

加賀藩内の  
尊王攘夷派は壊滅